

「水産海洋基礎」	単位数	4単位
	学科・学年・学級	海洋科学科 第1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	水産や海洋に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解させる。
使用教科書・副教材等	水産海洋基礎 (海文堂)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)	考查範囲
1 学期	オリエンテーション 【講義】 第3章 基礎実習 第4節 海洋実習 4-1 カッター 4-2 機動艇(操船) 4-3 体験乗船	4	水産海洋基礎の取り組み方について知る。	集団行動訓練等	中間 考查
	第1章 海のあらまし 第1節 世界の海	5	船の基礎的な運用法などを学び、海上におけるマナーを知り、操船の基礎を身につける。 海と船について知り、当直などを通し2年時からの乗船に備えた訓練を行う。	カッター操練 体験航海(2泊3日)	
	第2節 日本の海 第3節 海と食生活・文化・社会	6	海の誕生、海底地形、水界の広がり、海水の流動、海と気候についての基礎・基本を理解する。 海の規定や日本近海の海流について学ぶ。		
	第4節 海と生物 第5節 海と環境 【実習】 第3章 基礎実習 第4節 海洋実習	7	海洋文化、食生活と水産物について自ら調査し、まとめ、発表する。 生物多様性、水生生物の観察について学ぶ。 海とその環境の関連性を学ぶ。		
2 学期	【講義】 第2章 水産業と海洋関連産業のあらまし 第1節 船と暮らし	9			中間 考查
	第2節 水産業の歴史と現状	10	体験航海で学んだ内容と関連させ、船体の各部分名称や漁船の種類と特徴を理解する。 水産業とのこれまでの関わり、新しい海の利用について理解する。		
	第3節 とる漁業 第4節 つくり育てる漁業	11	さまざまな漁業法について学ぶ。 漁業資源管理からみたつくり育てる漁業の必要性や基礎的な方法を学ぶ。		
	第5節 漁業・資源管理 第6節 水産物の流通 第7節 水産物の加工 【実習】 第3章 基礎実習 第1節 水産・海洋生物の採集	12	水産物の流通・加工に関する基礎的内容を学ぶ。  採集物の調査・観察を行う。	校外学習「かごしま水族館見学」	

	第2節 水産・海洋生物の飼育 第3節 食品加工 第4節 海洋実習		クラスごとに水槽を設置し、飼育観察を行う。  処理加工の基本を学び、技術を身につける。 操船、潜水、編網等の基礎的事項を学ぶ。		
3 学 期	【講義】 第8節 海洋関連産業  水産海洋技術検定 【実習】 第3章 基礎実習 第3節 食品加工 第4節 海洋実習	1  2  3	水産・海洋資源の可能性について学ぶ。  「水産海洋基礎」全般に関する内容を復習し、水産海洋技術検定合格を目指す。  処理加工の基本を学び、技術を身につける。 操船、潜水、編網等の基本的な技術を身につける。	水産海洋技術検定 (2月中旬)	学 年 末 考 査

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

次の4つの観点に基づき、学習内容のまとめり(定期考査までを学習のひとまとめり)ごとに下の評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	水産や海洋について関心を持ち、その基礎的な知識・技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけようとしている。	学習活動への参加の仕方や態度 (50%) ノート(講義・実習)の内容 (25%) 提出物 (25%)
思考・判断・表現	水産や海洋について自ら思考を深め、その基礎的な問題解決に向け、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	定期考査 (30%) 実習・発表評価 (30%) ノート(講義・実習)の内容 (40%)
技能	水産や海洋に関する基礎的な技術の習得や調査・研究などの実践活動について、それらを的確に表現することができる。	定期考査 (30%) 実習・発表評価 (30%) ノート(講義・実習)の内容 (40%)
知識・理解	水産や海洋に関する基礎的な知識を身につけ、水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解している。	定期考査 (70%) 課題・小テスト (30%)